



TITLE:

リング型ネットワークにおけるハイブリッド・プロトコル・モデルの性能評価(待ち行列理論とその周辺)

AUTHOR(S):

時本, 博昭; 松本, 豊; 滝根, 哲也; 高橋, 豊; 長谷川, 利治

CITATION:

時本, 博昭 ...[et al]. リング型ネットワークにおけるハイブリッド・プロトコル・モデルの性能評価(待ち行列理論とその周辺). 数理解析研究所講究録 1986, 596: 1-21

ISSUE DATE:

1986-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/99556>

RIGHT:

リング型ネットワークにおける
ハイブリッド・プロトコル・モデル
の性能評価

時 本 博 昭

松 本 豊

滝 根 哲 也

高 橋 豊

長 谷 川 利 治

京 都 大 学 工 学 部 数 理 工 学 科

1. ま え が き

コンピュータ・ネットワークの発展に伴い、コンピュータ・ネットワークの重要性が認識され、その利用が広く行われるようになった。この中で、コンピュータ・ネットワークの性能向上が求められ、そのための研究開発が行われている。本章では、コンピュータ・ネットワークの性能向上のための研究開発の現状と今後の展望について述べる。

コンピュータ・ネットワークの性能向上のための研究開発は、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの3つの分野に分けられる。ハードウェアは、コンピュータの性能向上のための研究開発が行われている。ソフトウェアは、コンピュータの性能向上のための研究開発が行われている。ネットワークは、コンピュータの性能向上のための研究開発が行われている。

本章では、コンピュータ・ネットワークの性能向上のための研究開発の現状と今後の展望について述べる。まず、コンピュータ・ネットワークの性能向上のための研究開発の現状について述べる。次に、コンピュータ・ネットワークの性能向上のための研究開発の今後の展望について述べる。最後に、本章のまとめについて述べる。

2. プロトコル

リング型ネットワーク（図2.1）におけるコンテン

3. モデル

解析を行う上で、プロトコルに従って以下の様にモデル化する。

- 1) ネットワーク上には、N人の利用者がバッファサイズ1の端末で等間隔に配置され、バッファに送信すべきパケットを保有している状態を保留状態、送信待ち状態の利用者は、バッファに送信要求がない状態の利用者は、バッファに送信要求待ち状態で、新たにパケットを発生し、その際必ず回線に送る。一方、保留状態の利用者は、回線を再度セッティングする。また、保留状態の利用者は、新たにパケットを送信する。また、保留状態の利用者は、新たにパケットを送信する。
- 2) CSMA/CDモードにおいて、バッファに送信要求がない状態の利用者は、バッファに送信要求待ち状態で、新たにパケットを発生し、その際必ず回線に送る。一方、保留状態の利用者は、回線を再度セッティングする。また、保留状態の利用者は、新たにパケットを送信する。
- 3) 隣接した端末間の伝播遅延をD(=一定)、パケットの伝送時間を α (=一定)とする。
- 4) CSMA/CDモードで送信成功パケットの終端が端末から出た時点をとークン・モードの始まりとする。
- 5) トークン・モードにおいて、パケットをリング上に送り出した端末がパケットを回収したとき、その終端に他局のパケットがつかないければ、トークン・モードは終了し、再びCSMA/CDモードに入る。
- 6) 各端末は、送信に成功した最後のパケット通過後ND時間回線上に送信がなければ、CSMA/CDモードに入る。

4. 解析

4. 1. CSMA/CDモード

このモードでは、ある端末がパケットを回収し終わった時点隠れマルコフ点とする。各隠れマルコフ点

においてその直前にパケットを送信した端末を1とし、
、パケット伝送方向に順に2, 3, ..., Nと各端
末に番号を割り当て、システムの状態を $X = (X_1,$
 $X_2, \dots, X_N)$ で記述する。

但し

$$X_n = \begin{cases} 1 : \text{端末 } n \text{ がパケットを保有している。} \\ 0 : \text{端末 } n \text{ がパケットを保有していない。} \end{cases} \quad (1 \leq n \leq N)$$

パケットの送信が成功する場合の遷移確率 p_{XY}^s を求
める。ある隠れマルコフ点から各端末が、回線が空
きであると検知するまでの遷移確率を p_{XZ}^1 とすると、

$$p_{XZ}^1 = [Z_1 + \exp(-\lambda ND) - 2Z_1 \exp(-\lambda ND)]^{1-X_1} \cdot \prod_{n=2}^N [Z_n + \exp(-\lambda(n-1)D) - 2Z_n \exp(-\lambda(n-1)D)]^{1-X_n} \cdot \prod_{n=1}^N Z_n^{X_n} \quad (4.1)$$

上式で、 Z_n は端末 n の隠れマルコフ点から $(n-1)D$ 後
の状態、但し、 Z_1 は端末1の隠れマルコフ点から ND 時
間後の状態を示す。

次に、状態 Z のときに端末 k が回線の空きを検知後
 t に送信するという条件のもとで、送信が成功する確
率を $p_Z(k|t)$ とすると、これは次式で与えられる。

$$p_Z(1|t) = \prod_{n=2}^N \exp[-a(t+ND)] \quad (4.2)$$

$$p_Z(k|t) = \exp(-a_1 t) \prod_{n=2}^{k-1} \exp(-a(t+ND)) \prod_{n=k-1}^N \exp(-a t) \quad (2 \leq k \leq N)$$

但し、

$$\begin{aligned} a_n &= a_n(X_n) \\ &= \lambda(1 - X_n) + rX_n \end{aligned}$$

さらに端末 k が送信したときに送信時間 α の間に状態が Z から Y に遷移する確率を $p_{ZY}(k, \alpha)$ と表すと、

$$\begin{aligned} p_{ZY}(k, \alpha) &= (1 - Y_1)^{N-k+1} \prod_{n=2}^{N-k+1} [Y_n + \exp(-\lambda\alpha_n) - 2Y_n \exp(-\lambda\alpha_n)]^{1-Z_{n+k-1}} \\ &\quad \prod_{n=N-k+2}^N [Y_n + \exp(-\lambda\alpha_n) - 2Y_n \exp(-\lambda\alpha_n)]^{1-Z_{n-N+k-1}} \\ &\quad \prod_{n=2}^{N-k+1} Y_n^{Z_{n+k-1}} \prod_{n=N-k+2}^N Y_n^{Z_{n-N+k-1}} \end{aligned} \quad (4.3)$$

但し、

$$\alpha_n = \alpha - (n-1)D$$

となる。(4.2)と(4.3)から、端末 k が状態 Z で回線の空きを知ってから時間 t 後に最初にパケットを送信し、成功して送信後状態 Y に遷移する確率 $p_{ZY}^S(k|t)$ は、

$$p_{ZY}^S(k|t) = p_Z(k|t) p_{ZY}(k, \alpha) \quad (4.4)$$

で与えられる。時間に関する条件をはずすと端末 k が状態 Z で回線の空きを知ってから最初にパケットを送信成功し、送信後状態 Y に遷移する確率 $p_{ZY}^S(k)$ は、

$$p_{ZY}^S(k) = \int_0^\infty p_{ZY}^S(k|t) a_k \exp(-a_k t) dt$$

$$= \begin{cases} \frac{p_{ZY}(1, \alpha) a_1}{\sum_{n=1}^N a_n} \exp(-ND \sum_{n=2}^N a_n) & (k=1) \\ \frac{p_{ZY}(k, \alpha) a_k}{\sum_{n=1}^N a_n} \exp(-ND \sum_{n=2}^{k-1} a_n) & (2 \leq k \leq N) \end{cases}$$

従って各端末が回線が空きであると検知したときの状態 Z から、送信成功パケットの終端が端末から出た時点での状態 Y への遷移確率を p_{ZY}^2 とすると、

$$p_{ZY}^2 = \sum_{k=1}^N p_{ZY}^s(k)$$

となる。

パケットの送信が成功する場合の遷移確率は次式で求まる。

$$p_{XY}^s = \sum_Z p_{XZ}^1 p_{ZY}^2$$

次に送信に失敗する場合の遷移確率 P_{XY}^f を求める。送信が失敗するときは、端末 k が送信開始し、時間 ND 後の隠れマルコフ点になる。

直前の隠れマルコフ点において状態 X であったときに端末 k が回線の空きを検知後 t で送信開始し、その時点でシステムが状態 Z である確率 $p_{XZ}^{f1}(k, t)$ は、次式で与えられる。ここで m は、端末が m 局まで回線の空きを検知していることを表している。

$k \geq 2$ のとき

$$i) (m-k)D \leq t \leq (m-k+1)D \quad (m=k, \dots, N)$$

$$p_{XZ}^{f1}(k, t) = z_1^{X_1} \{z_1 + (1-2z_1) \exp[-\lambda((k-1)D+t)]\}^{1-X_1}$$

$$\prod_{\substack{n=2 \\ n \neq k}}^m \{(1-z_n) \exp[-\lambda((k-1)D+t)]\}$$

$$+ z_n [1 - \exp(-\lambda(n-1)D)] \exp[-\gamma((k-n)D+t)]\}^{1-X_n}$$

$$\prod_{n=m+1}^N \{z_n + (1-2z_n) \exp[-\lambda((k-1)D+t)]\}^{1-X_n}$$

$$\prod_{\substack{n=2 \\ n \neq k}}^m \{z_n \exp[-\gamma((k-n)D+t)]\}^{X_n} z_k \prod_{n=m+1}^N z_n^{X_n}$$

$$= A_k B_{km} \sum_{i=0}^{N-m+1} \theta_i(m, k) \exp[-(C_{km} + a_i)t]$$

$$ii) t \geq (N-k+1)D$$

$$\begin{aligned}
 \underline{P}_{XZ}^{fl}(k, t) &= z_1^{X_1} \{ (1-z_1) \exp[-\lambda((k-1)D+t)] \\
 &\quad + z_1 [1 - \exp(-\lambda ND)] \exp[-\gamma((k-N-1)D+t)] \}^{1-X_1} \\
 &\quad \prod_{\substack{n=2 \\ n \neq k}}^N \{ (1-z_n) \exp[-\lambda((k-1)D+t)] \\
 &\quad + z_n [1 - \exp(-\lambda(n-1)D)] \exp[-\gamma((k-n)D+t)] \}^{1-X_n} \\
 &\quad z_k \prod_{\substack{n=2 \\ n \neq k}}^N z_n^{X_n} \exp[-\gamma X_n((k-n)D+t)] \\
 &= A_k B_{kN} \exp(-C_{kN} t)
 \end{aligned}$$

k=1 のとき

$$\begin{aligned}
 \underline{P}_{XZ}^{fl}(1, t) &= \prod_{n=2}^N \{ (1-z_n) \exp[-\lambda(ND+t)] \\
 &\quad + z_n [1 - \exp(-\lambda(n-1)D)] \exp[-\gamma((N-n+1)D+t)] \}^{1-X_n} \\
 &\quad z_1 \prod_{n=2}^N z_n^{X_n} \exp[-\gamma X_n((N-n+1)D+t)] \\
 &= A_1 B_{1N} \exp(-C_{1N} t)
 \end{aligned}$$

但し

$$A_k = A_k(\underline{X}, \underline{Z})$$

$$= \begin{cases} z_1 \prod_{n=2}^N z_n^{X_n} & (k=1) \\ z_k \prod_{\substack{n=1 \\ n \neq k}}^N z_n^{X_n} & (2 \leq k \leq N) \end{cases}$$

$$B_{km} = B_{km}(\underline{X}, \underline{Z}) \quad (m=k, \dots, N; 2 \leq k \leq N)$$

$$= \prod_{\substack{n=2 \\ n \neq k}}^m \{ \exp[-\gamma X_n (k-n)D] [(Z_n (1-\exp(-\lambda(n-1)D)) + (1-Z_n)) \\ \exp(-(1-Z_n)\lambda(k-1)D - Z_n \gamma(k-n)D)]^{1-X_n} \}$$

$$B_{kN} = B_{kN}(\underline{X}, \underline{Z})$$

$$= \{ (1-Z_1) \exp(-\lambda(k-1)D) + Z_1 (1-\exp(-\lambda ND)) \exp(-\gamma(k-N-1)D) \}$$

$$\prod_{\substack{n=2 \\ n \neq k}}^N \{ [(1-Z_n) \exp(-\lambda(k-1)D) + Z_n (1-\exp(-\lambda(n-1)D)) \exp(-\gamma(k-n)D)]^{1-X_n} \\ \exp[-\gamma X_n (k-n)D] \}$$

$$B_{1N} = B_{1N}(\underline{X}, \underline{Z})$$

$$= \prod_{n=2}^N \{ [(1-Z_n) \exp(-\lambda ND) + Z_n (1-\exp(-\lambda(n-1)D)) \exp(-\gamma(N-n+1)D)]^{1-X_n} \\ \exp[-\gamma X_n (N-n+1)D] \}$$

$$C_{km} = C_{km}(\underline{X}, \underline{Z}) = \sum_{\substack{n=2 \\ n \neq k}}^m [(1-X_n) ((1-Z_n)\lambda + Z_n \gamma) + X_n \gamma]$$

$$C_{1N} = \sum_{n=2}^N [(1-X_n) ((1-Z_n)\lambda + Z_n \gamma) + X_n \gamma]$$

$$C_{kN} = \sum_{\substack{n=1 \\ n \neq k}}^N [(1-X_n) ((1-Z_n)\lambda + Z_n \gamma) + X_n \gamma]$$

$$= \{ (1-Z_1) \exp[-\lambda t] + Z_1 \exp[-\gamma t] \}$$

$$\prod_{\substack{n=2 \\ n \neq k}}^N \{ [(1-Z_n) \exp[-\lambda t] + Z_n \exp[-\gamma t]]^{1-X_n} \exp[-\gamma X_n t] \}$$

また、 $\theta_i(m, k)$ は次の式を満たす。

$$(u_1 + v_1 \exp(-\lambda t)) \prod_{n=m+1}^N \{u_n + v_n \exp(-\lambda t)\} = \sum_{i=0}^{N-m+1} \theta_i(m, k) \exp(-a_i t)$$

ここで、

$$u_n = u_n(X_n, Z_n) = X_n + (1 - X_n) Z_n$$

$$v_n = v_n(k, X_n, Z_n)$$

$$= (1 - X_n) (1 - 2Z_n) \exp(-\lambda(k-1)D)$$

とする。

更に、時間に関する条件を積分によってはずすと

$$P_{XZ}^{fl}(k) = \sum_{m=k}^N \int_{(m-k)D}^{(m-k+1)D} P_{XZ}^{fl}(k, t) \{ [X_k + (1 - X_k) (1 - e^{-\lambda(k-1)D})] \gamma e^{-\gamma t} + (1 - X_k) e^{-\lambda(k-1)D} \lambda e^{-\lambda t} \} dt$$

$$+ \int_{(N-k+1)D}^{\infty} P_{XZ}^{fl}(k, t) \{ [X_k + (1 - X_k) (1 - e^{-\lambda(k-1)D})] \gamma e^{-\gamma t} + (1 - X_k) e^{-\lambda(k-1)D} \lambda e^{-\lambda t} \} dt \quad (k \neq 1)$$

$$P_{XZ}^{fl}(1) = \int_0^{\infty} P_{XZ}^{fl}(1, t) \{ [X_1 + (1 - X_1) (1 - e^{-\lambda ND})] \gamma e^{-\gamma t} + (1 - X_1) e^{-\lambda ND} \lambda e^{-\lambda t} \} dt$$

$$\int_{(m-k)D}^{(m-k+1)D} P_{XZ}^{fl}(k, t) \{ [X_k + (1-X_k) (1-e^{-\lambda(k-1)D})] \gamma e^{-\gamma t} + (1-X_k) e^{-\lambda(k-1)D} \lambda e^{-\lambda t} \} dt$$

$$= A_k B_{km} \sum_{i=0}^{N-m+1} \theta_i(m, k) \int_{(m-k)D}^{(m-k+1)D} \exp[-(C_{km} + a_i) t] [\omega_1(k) e^{-\gamma t} + \omega_2(k) e^{-\lambda t}] dt$$

$$= A_k B_{km} \sum_{i=0}^{N-m+1} \theta_i(m, k) \left\{ \frac{\omega_1(k)}{C_{km} + a_i + \gamma} \exp[-(C_{km} + a_i + \gamma)(m-k)D] [1 - \exp(-(C_{km} + a_i + \gamma)D)] \right. \\ \left. + \frac{\omega_2(k)}{C_{km} + a_i + \lambda} \exp[-(C_{km} + a_i + \lambda)(m-k)D] [1 - \exp(-(C_{km} + a_i + \lambda)D)] \right\}$$

$$\omega_1(k) = \gamma [X_k + (1-X_k) (1 - e^{-\lambda(k-1)D})]$$

$$\omega_2(k) = \lambda (1-X_k) e^{-\lambda(k-1)D}$$

$$\int_{(N-k+1)D}^{\infty} P_{XZ}^{fl}(k, t) \{ [X_k + (1-X_k) (1 - e^{-\lambda(k-1)D})] \gamma e^{-\gamma t} + (1-X_k) e^{-\lambda(k-1)D} \lambda e^{-\lambda t} \} dt$$

$$= A_k B_{kN} \int_{(N-k+1)D}^{\infty} e^{-C_{kN} t} (\omega_3(k) e^{-\gamma t} + \omega_4(k) e^{-\lambda t}) dt$$

$$= A_k B_{kN} \left\{ \frac{\omega_3(k)}{C_{kN} + \gamma} e^{-(C_{kN} + \gamma)(N-k+1)D} + \frac{\omega_4(k)}{C_{kN} + \lambda} e^{-(C_{kN} + \lambda)(N-k+1)D} \right\}$$

$$\omega_3(k) = \gamma [X_k + (1-X_k) (1 - e^{-\lambda(k-1)D})]$$

$$\omega_4(k) = \lambda (1-X_k) e^{-\lambda(k-1)D}$$

さらに送信失敗のときパケットを回収し終わるまでに $3ND$ 時間かかる。この間の状態遷移確率は、送信結果に拘らず次式で与えられる。

$$T_{ZY}(k) = f_{ZY}(k) \prod_{n=2}^{N-k+1} [Y_n + \exp(-3\lambda ND) - 2Y_n \exp(-3\lambda ND)]^{1-Z_{n+k-1}}$$

$$\prod_{n=N-k+2}^N [Y_n + \exp(-3\lambda ND) - 2Y_n \exp(-3\lambda ND)]^{1-Z_{n-N+k-1}}$$

$$f_{ZY}(k) = Y_1 \prod_{n=2}^{N-k+1} [(1-Z_{n+k-1})(1-Y_n) + Y_n] \prod_{n=N-k+2}^N [(1-Z_{n-N+k-1})(1-Y_n) + Y_n]$$

従って、ある隠れマルコフ点で状態が X であったときに最初の送信開始後 $3ND$ の時点で状態が Y である確率 p_{XY}^a は、

$$p_{XY}^a = \sum_{k=1}^N \sum_Z p_{XZ}^{f1}(k) T_{ZY}(k)$$

となる一方このとき送信に成功し、状態が X から Y へ遷移する確率 p_{XY}^{s2} は、前述の p_{XY}^a において $\alpha = 2ND$ とすれば求められる。

これらから次式が得られる。

$$p_{XY}^f = p_{XY}^a - p_{XY}^{s2}$$

C S M A / C D モードの初期状態ベクトルを $X^0 = (X_1^0, X_2^0, \dots, X_N^0)$ とするとき、その確率 π_{X^0} は、

$$\pi_{X^0} = (1 - X_1^0) \prod_{n=2}^N [X_n^0 + \exp(-\lambda(N-n+1)D) - 2X_n^0 \exp(-\lambda(N-n+1)D)]$$

となる。

次にある隠れマルコフ点で、システムの状態が X である場合の回線の空き期間を表す分布関数のラプラス・スティルチェス変換形を $l_X^*(s)$ とすると、

$$I_X^*(s) = \int_0^\infty \lambda_1(Z) \exp(-\lambda_1(Z)t) P_1'(1,t) \exp[-s(t+ND)] dt \\ + \sum_{k=2}^N \int_0^\infty \lambda_k(Z) \exp(-\lambda_k(Z)t) P_1'(k,t) \exp[-s(t+(k-1)D)] dt$$

となり、この積分を計算すると次式となる。

$$I_X^*(s) = \frac{\lambda_1(Z)}{s + \sum_{n=1}^N \lambda_n(Z)} \exp[-sND - D \sum_{n=2}^N \lambda_n(Z)(N-n+1)] \\ + \sum_{k=2}^N \lambda_k(Z) \left[\sum_{\ell=0}^{N-k} \frac{1}{-(s + \sum_{n=2}^{k+\ell} \lambda_n(Z))} \exp[-(s + \sum_{n=2}^{k+\ell} \lambda_n(Z))\ell D + D \sum_{n=2}^{k+\ell} \lambda_n(Z)(n-k) - (k-1)Ds] \right. \\ \left. \{ \exp[-(s + \sum_{n=2}^{k+\ell} \lambda_n(Z))D] - 1 \} \right. \\ \left. + \frac{1}{s + \sum_{n=1}^N \lambda_n(Z)} \exp[-(s + \sum_{n=2}^N \lambda_n(Z))(N-k+1)D + D \sum_{n=2}^N \lambda_n(Z)(n-k) - (k-1)Ds] \right]$$

今、ある隠れマルコフ点で状態が X であったときに、最初に送信が成功するまでの時間間隔分布のラプラス・ステイルチェス変換形を $ID_X^*(s, \alpha)$ とすると次の式を満足する。

$$ID_X^*(s, \alpha) = \sum_{\underline{Y}} P_{\underline{XY}}^S I_X^*(s) \exp(-s\alpha) + \sum_{\underline{Y}} P_{\underline{XY}}^f I_X^*(s) \exp(-3sND) ID_Y^*(s, \alpha)$$

ここで、 $i = \sum_{n=1}^N X_n 2^{n-1}$ として各状態に一意的な番号付を行い、上式を行列形に直すと、

$$ID^*(s, \alpha) = P^{S*}(s, \alpha) H + P^{f*}(s) ID^*(s, \alpha)$$

但し、

$$[P^{S*}(s, \alpha)]_{\underline{XY}} = P_{\underline{XY}}^S I_X^*(s) \exp(-s\alpha)$$

$$[P^{f*}(s)]_{\underline{XY}} = P_{\underline{XY}}^f I_X^*(s) \exp(-3sND)$$

H は全ての要素が 1 である縦ベクトルである。これを $ID^*(s, \alpha)$ について解くと、

$$ID^*(s, \alpha) = [I - P^{f*}(s)]^{-1} P^{s*}(s, \alpha) H$$

となる。これらから C S M A / C D モードにおいて始めてパケットの送信が成功するまでの時間間隔分布のラプラス・スティルチェス変換形 $ID^*(s, \alpha)$ は、次のようになる。

$$ID^*(s, \alpha) = \sum_{\underline{X}^0} \pi_{\underline{X}^0} ID^*(s, \alpha)$$

4. 2. トークン・モード

C S M A / C D モードで送信成功パケットを出し終わった時点トークン・モードの始まる時点とする。トークン・モードでは、ある端末がパケットを出し終わった時点隠れマルコフ点とする。また各マルコフ点において端末の番号を送信直後の端末を 1 とし、トークンが回る方向へ順次 2、3、...、N と付けかえる。従って X_1 は常に 0 となる。今、ある隠れマルコフ点でシステムの状態が X であり、次の隠れマルコフ点で状態 Y に遷移する確率 P_{XY}^t を考える。それに先立ちある隠れマルコフ点以後端末 k が最初に送信する場合の遷移確率を $P_{XY}^t(k)$ とすると、

$$P_{XY}^t(k) = \prod_{\ell=2}^{k-1} (1-X_\ell) \exp[-(\ell-1)\lambda D] [1-\exp(-(k-1)\lambda D)]^{1-X_k} P_{XY}^t(k, \alpha)$$

但し

$$P_{XY}^t(k, \alpha) = (1-X_1)(1-Y_1)$$

$$\prod_{n=2}^{N-k+1} [Y_n + \exp[-\lambda(\alpha+(k-1)D)] - 2Y_n \exp[-\lambda(\alpha+(k-1)D)]]^{1-X_{n+k-1}} \prod_{n=N-k+2}^N [Y_n + \exp[-\lambda(\alpha+(N-n+1)D)] - 2Y_n \exp[-\lambda(\alpha+(N-n+1)D)]] f_{XY}(k)$$

これからトークン・モードにおける状態 X から状態 Y への遷移確率 p_{XY}^t は、

$$p_{XY}^t = \sum_{k=2}^N p_{XY}^t(k)$$

ここで、ある隠れマルコフ点でシステムの状態が X であり、次に最初にシステムの状態が 0 ($X_n = 0$; $n = 1, 2, \dots, N$) に遷移するまでの時間間隔分布のラプラス・スティルチェス変換形を $D_i(s)$ 、次の隠れマルコフ点で 0 に遷移するときの時間間隔分布のラプラス・スティルチェス変換形を $R_i(s)$ 、次の隠れマルコフ点で 0 以外の状態 Y に遷移するときの時間間隔分布のラプラス・スティルチェス変換形を $[Q(s)]_{ij}$ とする。また、

$$D^T(s) = (D_1(s), D_2(s), \dots, D_{2N-1}(s))^T$$

$$R(s) = (R_1(s), R_2(s), \dots, R_{2N-1}(s))$$

とすると、

$$D'(s) = [I - Q(s)]^{-1} * R(s)$$

ここで、 I は $(2^N - 1) \times (2^N - 1)$ の単位行列で

$$[Q(s)]_{ij} = \sum_{k=2}^N p_{ij}^t(k) \exp[-s((k-1)D + \alpha)]$$

($i, j \neq 0$)

$$i = \sum_{n=1}^N x_n 2^{n-1}$$

$$j = \sum_{n=1}^N y_n 2^{n-1}$$

$$R_i(s) = \sum_{k=2}^N p_{i0}^t(k) \exp[-s(k-1)D + \alpha]$$

である。トークン・モードのある隠れマルコフ点にお

いて状態が 0 であり、次に最初に状態 0 に遷移するまでの時間間隔分布のラプラス・スティルチェス変換形を、 $U^*(s)$ とする。また、1 ステップの遷移で状態 0 から状態 0 へ遷移するときの時間間隔分布のラプラス・スティルチェス変換形 $P_{00}(s)$ は、次の式で与えられる。

$$P_{00}(s) = \sum_{k=2}^N P_{00}^t(k) \exp(-s((k-1)D + \alpha))$$

また、状態 0 から 0 以外の状態 Y へ遷移するときの時間間隔分布のラプラス・スティルチェス変換形を $S_j(s)$ とすると、

$$S_j(s) = \sum_{k=2}^N P_{0j}^t(k) \exp[-s((k-1)D + \alpha)] \quad (j \neq 0)$$

ここで、 $S = (S_1(s), S_2(s), \dots, S_{2N-1}(s))$ とすると、

$$U^*(s) = P_{00}(s) + S(s)[I - Q(s)]^{-1}R(s)$$

状態 0 からトークン・モードが終了する確率 q は、

$$q = 1 - \sum_Y P_{0Y}^t$$

であり、最後にパケットを送信した端末が自局のパケットを ND 後に回収した時点でトークン・モードは終了する。

$$q^*(s) = q \cdot \exp(-sND)$$

さらに

$$D_0(s) = 1$$

と定義し、

$$D(s) = (D_0(s), D_1(s), \dots, D_{2N-1}(s))^T$$

とすると、トークン・モードが状態 i で始まって終わるまでの時間間隔分布のラプラス・スティルチェス

変換形 $ID_i^{t*}(s, \alpha)$ は、

$$ID_i^{t*}(s, \alpha) = D_i(s) [1 - U^*(s)]^{-1} q^*(s)$$

$$ID^{t*}(s, \alpha) = D(s) [1 - U^*(s)] q^*(s)$$

$$\text{但し、} ID^{t*}(s, \alpha) = (ID_0^{t*}(s, \alpha), ID_1^{t*}(s, \alpha), \dots, ID_{2N-1}^{t*}(s, \alpha))^T$$

ここで、C S M A / C D モードが始まってから送信成功パケットを出し終わったときのシステムの状態の定常分布 $\Delta(\alpha)$ は、

$$\Delta(\alpha) = \pi(I - P^f)^{-1} P^s$$

但し、

$$[P^f]_{ij} = P_{ij}^f, \quad [P^s]_{ij} = P_{ij}^s, \quad [\pi]_i = \pi_i, \quad i = \sum_{n=1}^N x_n^0 2^{n-1}$$

これは、トークン・モードの初期状態の定常分布となっている。従って、トークン・モードが始まってから終わるまでの時間間隔分布のラプラス・スティルチェス変換形 $ID^{t*}(s, \alpha)$ は、

$$ID^{t*}(s, \alpha) = \Delta(\alpha) ID^{t*}(s, \alpha)$$

次に、トークン・モードの間に送信成功したパケット数を考える。このモードに入ってから最初に状態 0 に遷移するまでの送信成功パケット数の平均を m_1 、状態 0 に遷移後、次に再び状態 0 に遷移するまでに送信成功したパケット数の平均を m_2 とする。また、トークン・モードに入ってから最初に状態 0 に遷移するまでの回線保留期間の長さの分布のラプラス・スティルチェス変換形を $ID^{t'*}(s, \alpha)$ 、状態 0 から次に再び状態 0 に遷移するまでの回線保留期間の長さの分布のラプラス・スティルチェス変換形を $U'^*(s, \alpha)$ とする。

$$[Q'(s)]_{ij} \equiv \sum_{k=2}^N P_{ij}^t(k) \exp(-s\alpha) \quad (i, j \neq 0)$$

$$R'_i(s) \equiv \sum_{k=2}^N P_{i0}^t(k) \exp(-s\alpha) \quad (i \neq 0)$$

$$S'_j(s) \equiv \sum_{k=2}^N P_{0j}^t(k) \exp(-s\alpha) \quad (j \neq 0)$$

$$R'(s) = (R'_1(s), \dots, R'_{2N-1}(s))^T$$

$$S'(s) = (S'_1(s), \dots, S'_{2N-1}(s))$$

$$P'_{00}(s) \equiv \sum_{k=2}^N P_{00}^t(k) \exp(-s\alpha)$$

の様に定義すると、

$$U'^*(s, \alpha) = P'_{00}(s) + S'(s) [I - Q'(s)]^{-1} R'(s)$$

$$m_2 = -\frac{1}{\alpha} \frac{d}{ds} U'^*(s, \alpha) \Big|_{s=0}$$

$$ID_i^{t'^*}(s, \alpha) = [[I - Q'(s)]^{-1} R'(s)]_i \quad (i \neq 0)$$

$$ID_0^{t'^*}(s, \alpha) = U'^*(s, \alpha)$$

とすると、

$$ID^{t'^*}(s, \alpha) = \Delta(\alpha) ID^{t'^*}(s, \alpha)$$

$$\text{但し、} ID^{t'^*}(s, \alpha) = (ID_0^{t'^*}(s, \alpha), \dots, ID_{2N-1}^{t'^*}(s, \alpha))^T$$

$$m_1 = -\frac{1}{\alpha} \frac{d}{ds} ID^{t'^*}(s, \alpha) \Big|_{s=0}$$

1回のトークン・モードの間に送信成功したパケット数の平均 M は、

$$M = \sum_{k=1}^{\infty} q(1-q)^{k-1} (m_1 + (k-1)m_2)$$

$$= m_1 + \frac{1-q}{q} m_2$$

今、CSMA / CD モードの時間間隔分布の平均を L_C , トークン・モードのそれを L_T とすると、スループット S は、次式となる。

$$S = \frac{1+M}{L_C + L_T}$$

$$L_C = - \frac{d}{ds} ID^*(s, \alpha) \Big|_{s=0}$$

$$= - P[I - P^{f*}(0)]^{-1} [P^{s*(1)}(0, \alpha)H + P^{f*(1)}(0)ID^*(0, \alpha)]$$

$$L_T = - \frac{d}{ds} ID^{t*}(s, \alpha) \Big|_{s=0}$$

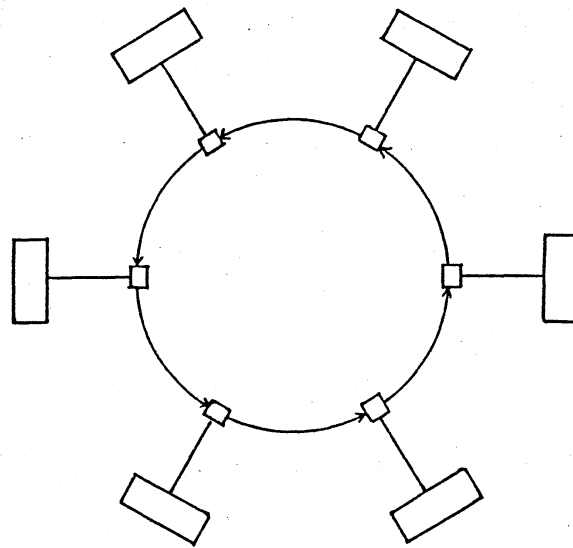
$$= - \Lambda(\alpha) \left[D^{(1)}(0) [1 - U^*(0)] q^*(0) \right.$$

$$\left. + D(0) \{ [1 - U^*(0)]^{-2} U^{*(1)}(0) q^*(0) + [1 - U^*(0)] q^{*(1)}(0) \} \right]$$

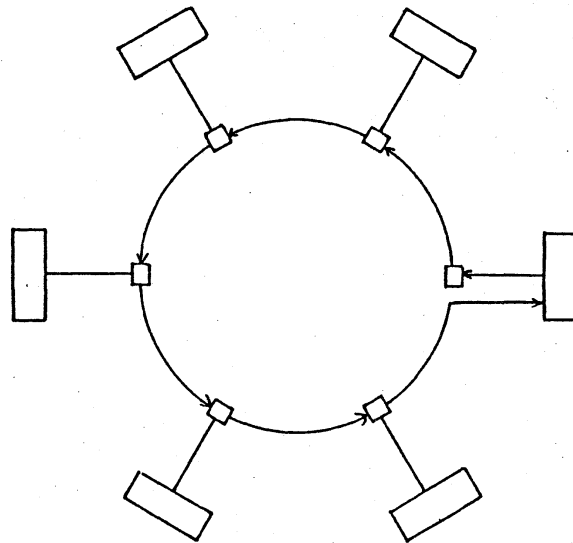
5. むすび

本稿では、リング型ネットワークにおいてCSMA / CD 方式とトークン・リング方式の両プロトコルを有するコンテンション・リング方式の性能評価を、マルコフ解析を用いて行った。

今後、コンテンション・リング方式の種々の特性を明らかにするため、CSMA / CD 方式やトークン・リング方式とも比較し更に精密な解析を行うことが課題である。



(a) リン グ 形 態



(b) 送 信 成 功 (CSMA/CDモ-ド)

図 2 . 1 コ ン テ ン シ ョ ン ・ リ ン グ の 構 成

参考文献

- [1] 岡田 博 美 , 大 野 聡 , “ L A N におけるコン
テンション・リング方式の近似解析 ” , 電 子 通 信
学 会 第 1 回 交 換 情 報 ネットワーク・ワークショ
ップ 研 究 会 資 料 , pp.55-59, 昭 和 60年 3月 .

- [2] F.A.Tobagi, “ Distribution of Paket Delay
and Interdeparture Time in Slotted ALOHA
and Carrier Sense Multiple Access ” , J.
ACM., vol.29, pp.907-927, Oct.1982.

- [3] P.Gopal and J.Wong, “ Analysis of a Hybrid
Token-CSMA/CD Protocol for Bus Networks ”
Proc. of the 2nd Symposium on Performance
of Computer-Communication Systems, 1984.